

天明環境保全隊の取り組み The Action of Tenmei Environment Conservation Association

○永井 幸人
NAGAI Yukito

1. 天明地域の概要

当地域は熊本市の南西部に位置し、西は有明海、南は緑川に面し干拓で出来た水田地帯で、基盤整備された農地（整備率は96%）のもと米＋施設園芸の複合経営が盛んである。過去に津波や潮害の被災経験を持ち水問題には特に関心の高い地域である。

天明環境保全隊は天明全域（水田：1,342ha、住民：約1.1万人）を対象に21の団体（NPO等の環境団体・学校関係・農業団体・福祉事業所等）と30の全集落、併せて51の構成員（団体）が参画している。また平成21年度からは隣接する飽田地区（145ha）が加入している。

2. 背景

地域構造の変化、高齢化、兼業化等により農業生産の停滞や集落機能が低下してきた。共同活動や伝統行事等に必要の人材確保が困難になり、継続が難しい集落も出てきた。農地・水・環境保全向上対策が始まる以前は、水土里ネットや熊本市の助成金を活用して、どうにか集落単位の共同活動が行われていた。近年、地域に関心がなく誰かが保全活動はするだろうと考える住民が増え、住民同士が集う機会が少なくなり連帯感も薄れていた。

3. 天明環境保全隊の目指すもの（体制づくり）

水土里ネット天明は農地・水・環境保全向上対策に伴い、地域資源の管理者として天明環境保全隊の中心を担うべく構成員・事務局として参画し、30の全集落を対象に事務局が集落に出向き、「地域環境は誰のものか」を住民に問いかけ理解を得るまで何回も話し合いを重ねた。各々の集落は自治会・公民館・農区・老人会・子ども会・女性の会・消防団等の組織で構成されており、これらの組織が合同で保全活動計画を策定することにした。

一方、天明地域には、植林、魚の保全、植栽や水浄化（EM菌）等を行なっている環境団体・まちづくり委員会・学校関係等が15団体あり、各々のフィールドで様々な活動を展開していた。これらの団体は、水土里ネットの21世紀土地改良区創造運動の仲間達でもある。農村環境向上活動を活発化させるために天明環境保全隊に委員会（専門家・小中学校・行政・NPO等）を設け、天明版の活動指針をつくり参加を促した結果、新たに6団体が加わり、今日では天明環境保全隊の参加団体数は21団体に及んでいる。これらの団体は年2回の検討会で顔を合わせ、情報交換を行い、連携による様々な活動に挑戦している。

天明環境保全隊は全住民が自らの問題として考え、環境への関心と愛着を醸成することで、農業の持続的発展及び健全な生活・生産環境を維持し、豊かな環境を次世代へ繋ぐことを目的としている。

4. 福祉事業所等の非農家による様々な活動

農家は水利施設の維持補修の他、レンゲ210haを播種し景観形成や有機肥料に利用して

所属：天明環境保全隊 Tenmei Environment Conservation Association,
キーワード：農村環境、活動組織、農業と福祉の連携

減化学肥料に努めている。環境団体・学校関係はビオトープ、水源涵養林の下草刈りや植林、環境教育に力を入れている。一般住民は生活に身近な地域清掃、花植え、水質浄化（EM菌・竹炭づくり）や刈草の堆肥化等を実施している。また老若男女が集う伝統的な農法の伝授も行われている。河川・道路沿いの作業については、行政との連携により草刈は環境保全隊、ゴミ処理は行政が対応するよう役割分担されている。

天明地域は農業と福祉のまちと呼ばれており、企業はなく福祉施設が3事業所ある。事業所は地域住民と共存するために、事業所周りの清掃活動の他、景観形成や水質浄化活動にも取り組んでいる。さらに農地を借り受けて、農家の指導のもと農作物を生産し、事業所内の直売所での販売や入居者の食材として利用している。また、独自で夏祭りを開催して地域住民と交流を図り、天明市民の集いなどでも地域の人と一緒に活動を展開している。なお、天明環境保全隊における農家の活動割合は36%、非農家は64%の参加である。また全活動費（50,580千円）に占める農村環境向上活動費は36%（18,100千円）となっている。

5. 福祉事業所を含む地域ぐるみ活動の成果

地域ぐるみの活動で人が集まれば知恵がわき、様々な活動にチャレンジする心も芽生え、地域住民の交流が活発化し、地域の団結力が強まってきた。互いの活動報告の場を設けたことで、集落や団体間の相互理解が深まり、競い合い、集落をまたぐ連携活動ができるようになった。また農地や水利施設を憩い・教育・遊びの場として利用することで、子ども達の農業への関心も高まってきた。特に、農家主体の保全管理から地域住民主体の保全管理の体制へと、大きく変わっていることが一番の成果である。

保全活動を通じて、平成20年には天明地域の農業振興を図る目的で後継者クラブや農業4団体等を構成員とする天明農業振興協議会が立ち上がり、農業・農村に係わる情報を共有し、連携を図り諸問題に取り組む体制も出来た。

福祉事業所は建設当時、地域のルールや農業・農家への理解不足のため、排水問題や土地の沈下問題等で地域住民と小さなトラブルを生じていた。しかし現在では、環境保全活動や地域にとけ込む努力を通じて、互いに理解し合える友好的関係が築かれ、地域にはなくてはならない福祉事業所として貢献している。

6. 今後に向けて

役割を分担しやる気をうまく引き出したことで、参加率も上がりいろんな活動が出来ると確信した。今は各世帯から1名参加している状況にあるが、これからはさらに多くの参加を呼びかけていきたい。今後は、リーダー育成、仲間づくりや広報活動の充実が重要と感じ、食料・農業・農村のことを一緒に考えるコーディネーターをどう育成するかが課題である。

また今後は、現在、一部の住民が参画している漁業者と河川流域住民との連携による川・海の保全活動（海浜清掃・水草処理・川清掃等）を天明環境保全隊全域の範囲まで拡大し、さらに参加者が増えるような取り組みに挑戦していきたい。